

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 T.F. 学年（留学当時） 5 年

実習期間 2023年 3月 2日（水）～ 2023年 3月 23日（木）

留学先機関名 ミュンヘン大学

1 プログラム内容について

(1) 参加した留学プログラム

- ・海外リサーチ・クラークシップ 海外クリニカル・クラークシップ
・その他短期派遣プログラム（ ）

2 現地までの移動について

| | | 空港名 | 時間 | | 空港名 | 時間 |
|----------------------------|---|------|-------|------|------|-------|
| 往路 | 日本発 | 羽田空港 | 11:30 | 現地着 | MUC | 18:00 |
| | 経由地着 | | | 経由地発 | | |
| 復路 | 現地発 | MUC | 12:35 | 日本着 | 羽田空港 | 9:05 |
| | 経由地着 | | | 経由地発 | | |
| 到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額 | 移動手段（ 電車 ） 所要時間：（ 40 ）分 金額目安：（約 2100 ）円・（ 14 ）ユーロ | | | | | |

3 宿泊先について

| | | | |
|-----------|---------------------|-----------------------|--------------------------|
| 滞在期間 | 2023年 3月 2日～ 3月 24日 | | |
| 宿泊タイプ | 寮 | 1 人部屋 共有設備：（コインランドリー） | |
| | ホテル・アパート | 人部屋 | |
| | ホームステイ | 人家族 自分以外の留学生（ ）人 | |
| | Airbnb・シェアハウス | 人で共同 | ホストの同居；あり・なし 共有設備：（ ） |
| 実習場所までの距離 | （ 電車 ）で（ 40 ）分 | | |
| 宿泊費用 | 7万円 / 1ヶ月 | | |

その他留意事項等

前泊（3月1日より一泊）：NOVOTEL MUNICH AIRPORT 17,000円/日

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1ヶ月

| 項目 | 金額 | 内訳 |
|--------|------------------|----------------------|
| 食費 | 約4万円 | プログラム費用に昼食（院内食堂）代を含む |
| 学用品購入費 | なし | なし |
| 交通費 | (63.2€ (約9480円)) | 学生定期（プログラム費用に含まれる） |
| その他 | 約3万円 | お土産・通信費用等 |
| 合計 | 約8万円 | |

(2) 派遣先周辺地域の治安等

ミュンヘンは中心部を含めて全体的に治安が良い地域です。

寮は以前のオリンピック村が学生寮となっており、多くの学生が住んでいます。中心部まで電車で約10分の位置にありますが、治安に問題はありません。

病院は郊外に位置しており、こちらも治安が良いかと思えます。寮から電車で約40分の位置にあります。

(3) その他留意事項等

寮の鍵がオートロックのため、スペアの鍵を他の人と交換しておいた方がよいです。最低限の食器やベッドセットはありますが、タオル等はないので現地購入もしくは日本から持ってくる必要があります。

ネットに関して、Wi-Fiがないので有線で接続する必要があり、LANケーブルに加えてアダプターも持っていきましょう。ネットの設定は少し面倒なので、他の参加者と協力しながらトライしてみてください。

5 実習について

| 実習診療科と主な内容（血液・腫瘍内科（Hemato-oncology）） | |
|--------------------------------------|----------------------|
| 実習内容 | ① 朝8時から採血（約1時間） |
| | ② 9時頃から回診（約1時間半～2時間） |
| | ③ 心電図測定・身体診察等実施後、昼食 |
| | ④ 午後は講義（1時間半ほど） |
| | ⑤ 講義終了後解散 |

(1) プログラム初日の行動

10時から13時までProf. Dreylingによるイントロダクションがありました。自己紹介・プログラム説明の後、院内の施設について案内していただきました。昼食後は大腸癌に関する講義を1時間ほど受けて解散となりました。

(2) 実習詳細

実習で最も驚いたのは採血や心電図などの手技を患者相手にさせてもらえたことです。

病棟初日に突然採血をしないかと聞かれた時は驚きましたが、最初のうちはバディにやり方を

説明してもらいながら行ったので、次第に慣れていきました。その他、心電図測定や身体診察も実際に患者さんを相手に行いました。

ドイツでは採血、血ガスや心電図測定などを医学生がメインで行っており、日本との違いを感じました。

病棟ではその他に腹水穿刺・骨髄穿刺・リンパ節生検・造血幹細胞移植の見学をしました。

回診中は医師が各患者について英語で説明があり、患者との会話中はバディが英語で通訳してくれたので、言語の壁はあまり感じませんでした。回診中に患者さんの心音や呼吸音の聴診をさせてもらうこともありました。

昼食の時間は特に決まっておらず、午後の講義の時間次第で、一通りやることが終わったタイミングで食堂に行くという形でした。食堂は日替わりのメニューが3つ（うち1つはベジタリアン向け）とサラダバーの中から1つ選ぶという形でした。昼食代はプログラムに含まれているので支払う必要はありませんでした。

午後の講義は1コマ約1時間～1時間半で、毎日1コマか2コマありました。

講義内容としては大腸癌・肺癌・乳癌など臓器別の講義に加えて、免疫療法・放射線療法・緩和ケアや放射線診断など検査・治療別の講義、Case Discussion など多岐にわたって行われました。

講義が終わると実習終了で、解散時間は大体16時前後でした。

配属される病棟は人によって異なり、私の場合は血液腫瘍内科でしたが、その他に消化器内科や整形外科などに配属された人もいました。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

| 時間 | 8:00 | 9:00 | 11:00 | 13:00 | 14:00 | 15:30 |
|----|------|------|-------------------------|-------|-------|-------|
| 行動 | 採血 | 回診 | ECG・採血・ 身体診察 etc. | 昼食 | 講義 | 解散 |

(4) 休日の過ごし方

週末のうち何日かは市内や別の都市への観光バスツアーが組まれていて、参加者たちと一緒に観光するという形になっていました。それ以外の日はBayern ticket（3名購入で一人当たり15€）という乗り放題の切符を買ってグループで遠出したり、市内の美術館に行ったりと、基本的に他の参加者と一緒に休日を過ごしていました。

(5) 留意事項等

予習しておくこと：医学英語、ドイツ語（日常会話レベル）、採血・心電図測定の方法

スクラブは院内のスクラブを着用するため、持ってくる必要はありませんでした。聴診器・白衣は持っていった方が良いです。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

ミュンヘン大学のプログラムで最も特徴的な点は、世界中の大学から医学生が集まって実習や講義を受けることができる点です。

今年度はOncology courseから20名、Neurology courseから8名の合計28名（留学生と現地学生が各14名）もの参加者が集まりました。

ブラジルから4名、日本・イタリア・スロベニアから各2名ずつ、タンザニア・チェコ・メキシコ・フランスから1名ずつと、多様な国々から医学生が集まっていました。彼らとの交流を通じて、様々な言語・文化・食事・医学教育等について学ぶことができ、多様性の重要性が謳われる現代社会において、大変貴重で興味深い経験をすることが出来ました。海外の同世代の医学生が何を考え、何に取り組んでいるのか、そんな話を聞くのはとても良い刺激となりました。

常に行動を共にしたバディの存在は、ドイツという異国の地で実習をするにあたって大変心強い存在となりました。横浜市立大学において本プログラムの初めての派遣ということで、ほとんど前知識がない中での実習となりましたが、採血や心電図測定の際も基本的にバディに見守られながら行うことが出来たので、安心して実習に臨むことが出来ました。

ドイツは英語を母国語とする国ではありませんので、言語の壁がどれほどあるのか心配なところでしたが、患者との会話はバディが通訳、回診の際はチームの医師が患者の説明を英語で行ってくれたため、それほど問題となりませんでした。講義も全て英語で行われ、多少難しい部分もありましたが、大変興味深いお話を聞くことが出来ました。

事前に予定表が配られるため予定を立てやすく、午前は病棟、午後は講義とメリハリのあるスケジュールで充実した日々を過ごすことが出来ました。

私が配属された血液腫瘍内科では白血病患者の他に、軟部腫瘍や膀胱癌患者など日本では別科で見ると同じ病棟内で診療されていたのが興味深かったです。

病棟実習だけでなく、バスツアーもプログラムとして組まれていることが特徴的で、金曜の午後に強制収容所に見学に行ったり、土日に観光に行ったりと、ミュンヘンの歴史や文化を学ぶことが出来ると同時に、他の参加者との交流の場となりました。

プログラム費用に院内食堂の食費・学生定期・学生寮が含まれているため、家探しの手間なしに比較的安価に滞在できるのが魅力です。一方、ミュンヘンは治安が良い代わりに物価が高く、レストラン等で外食をすると簡単に2千円を超えてしまうため、特に平日の夕食は自炊したり、ケバブなど安いもので済ましたりする人が多かった印象です。

(2) 今後の展望

同じ病棟に3週間いたため、配属先の病棟によって経験できる疾患や手技に偏りがあるように感じました。今年度の振り返りとしてそうした指摘をしましたが、来年度以降それが反映される

かは分かりません。ただ、本実習は自由度が高いため、学生同士でコンタクトを取って、先生方をお願いすればおそらく途中でスイッチすることも可能ではないかと思います。

Neurology course に名古屋大学からも医学部の5年生が参加しており、来年度以降も派遣される可能性があるとのことでしたので、希望があれば来年度の参加者を取り次ぎ可能です。

(3) 後輩へのメッセージ

このプログラムを通じて生まれた、世界中の医学生との繋がりは自分の一生の宝になると思います。彼らとの交流を通して、言語・食事・宗教・教育…日本では知り得なかった文化を学ぶことができました。何より、将来の医療を担う、同世代の素晴らしい人たちと出会うことが出来たのは、かけがえのない経験です。

英語でコミュニケーションをとるのが難しいという人でも、恥ずかしがらずに積極的に話してみましよう。相手も英語のネイティブではありませんし、完璧な英語を話す必要はありません。重要なのは言語力じゃなく積極性です。実習や講義では積極的に質問を、週末は友達を誘って外に出かけることで、より充実した留学生活となるのではないかと思います。

来年は別の国から別の参加者がやって来ます。新しい場所で新しい人との出会いが待っているなんてワクワクしませんか。

(4) その他

プログラムの企画、運営にご尽力いただいた、横浜市立大学医学部およびミュンヘン大学の先生方に感謝いたします。また、医学教育推進課医学国際化担当の皆様には手続きや滞在準備など大変多くのサポートをしていただきました。

また、多大なご支援をいただいた横浜市立大学医学部医学科同窓会倶楽部、医学部後援会の皆様に心より感謝申し上げます。

皆様のご支援なしには本プログラムへの参加は叶いませんでした。この場を借りて深く感謝申し上げます。